



# JACET News

大学英語教育学会

September 2004

The Japan Association of College English Teachers

No.145

[ 巻頭言 ]

2004 年夏に思う

九州沖縄支部長

鈴木千鶴子(長崎純心大学)

「山路を登りながら、かう考へた」。今夏、漱石の『草枕』発祥の地、熊本県玉名郡天水町を、十余年振りに訪れた。JACET 九州・沖縄支部の当時の支部長、福田昇八先生のご自宅へ支部の運営委員が招かれた後、副支部長の宮原文夫先生を筆頭に、「峠の茶屋」で雨ならぬ雪を凌いで一服しながら、共に漱石を偲んで以来のことである。あの時も、英語教育について熱い議論が交わされ、それぞれの英語教育に対する思いと以後の決意表明がなされたように私自身は記憶している。今回は熱く議論する相手はいなかったが、記録的な暑さの中、折りしもオリンピック発祥の地アテネでの五輪開催中とあって、漱石ゆかりの小天温泉那古井の郷で、英語教育に対する私なりの熱い思いを新たにすることができた。

英語教育に関して言えば、決して「智に働けば角が立つ。情に掉させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。」というようなことではないと思う。どのようにやってみても上手くゆかないものだ、と言うことではなく、やはり明確な目標と方針、方法を定めて臨むべきものであると考える。今回の 21 世紀初のオリンピックでは、日本選手の活躍が注目された。彼らの好成績は、日本の経済力や競争社会の結果と見る向きもあり、手放して喜んでばかりいるべきものではない面もある。しかしながら、少なくとも日本の英語教育は、オリンピック選手の勝因に関する次の 4 つの特徴と要因から、学ぶべきことがあるのではないだろうか。

第一に、「基本・基礎を大切に」練習を重ねた、という証言で明らかにされた事実。何に対しても言えることではあるが、ややもすると見落とされがちな点。

第二に、「個人にあった能力育成」の方法が採られたということ。その結果、個人競技でのメダル獲得が多かった。これは良い意味でも悪い意味でも（悪い意味とは、個々の独立した人格形成の段階を超えて、それをベースにした社会形成に至っていない段階ということ）悪いというよりも不十分・未発達な、日本人の個人の発達・台頭と並行した現象であ

り、結果であったと言えよう。

第三に、「科学的な練習方法」が採られたということ。英語教育の場合は社会文化的要因等、より広範な考察と研究成果に基く必要があるが、竹蓋幸生先生の科学的方法の提唱・実践に始まり、昨年度の JACET 賞の投野由紀夫先生のコーパス利用の研究の可能性、今年度 JACET 賞の竹内理先生の方略研究や、動機付け研究分野に至るまで、JACET 会員を中心に科学的アプローチが進んでいる。真に成果の上がる育成方法の基礎となる研究が、さらに進展することを願うものである。

第四に、「選手とコーチの信頼関係」が築かれたということ。(尤も、今日の全米オープンテニスで優勝し、今年グランドスラム三冠を獲得したロジャー・フェデラーが言うように「自分がコーチ」、の域に達することが最終目標であるが。)生徒・学生と教師の信頼関係は、必須である。このことは名古屋での第 43 回全国大会の招待講演で、沖縄国際大学の玉城康雄先生が 30 年以上に渡る教員養成のご体験に基づき強調された点でもあった。

最後にオリンピックの選手の皆さんは一樣に、「応援」のお陰ですと繰り返していた。それも本当であると思う。前述の福田先生は、今春発行された『JACET 九州・沖縄支部ニューズレター 20 周年記念号』で、最後におっしゃっています「いったい教師はこれまで、生徒に英語ができるようになって欲しいと、どれだけ本気で思ってきたのだろうか?」と。コーチと周りのサポーターが、本気で夢中になって指導・応援しない限り、選手が競技できるよなったり、ましてや世界で優勝したりすることなど不可能と言うべきでしょう。

#### 事務局より

9 月 2 日に秋季理事会、評議委員会、そして 3 日に総会が開かれました。理事会、評議委員会については「JACET 通信大会特集号」をご覧ください。3、4、5 日に中京大学において全国大会を開催致しました。こちらの詳細も大会特集号をご覧ください。大会には 820 人の参加があり盛況でした。

大会の総会でも話題となりましたが関東甲越地区が支部の設立を前提に発足しました。第 1 回関東甲越地区大会が 11 月 27 日に、清泉女子大学を会場として開催されます。テーマは「戦略構想行動計画と小中高大の連携」です。是非ご参加下さい。

(代表幹事 見上 晃)

#### 2004 年度月例研究会のお知らせ

今年度から開催場所を日本英語教育協会 B 館 4 階会議室に移し、現在 4 回の月例研究会を開催いたしました。会議室に入りきれないほどの参加者があり、大変盛況でした。内容につきましては、本年度から『年報』を関東甲越地区委員会にて年度末に刊行いたしますので、そちらをご参照くださるようお願いいたします。

佐野富士子(駿河台大)

4 月 17 日(土)[終了しました]

- 1)「語彙学習におけるコーパスと辞書の役割」投野由紀夫(明海大学)
- 2)「国際英語(EIL)の理論と教育実践」日野信行先生(大阪大学)

5月15日(土)[終了しました]

1)「英語関係節の難度決定要因の探求」伊藤彰浩(愛知学院大学)

2)「小学校における Storytelling の実践 現場教師との Collaboration による Action Research」八田玄二(椋山女学園大学)

6月19日(土)[終了しました]

1)「From Study to Practice: Score Improvements on TOEFL」生井健一(早稲田大学)

2)「大学英語教育における TOEIC の活用 導入から今後の課題まで」川辺孝(東京電機大学情報環境学部)

3)「TOEIC 対策指導 授業内と授業外の実践」河野円(星薬科大学)

7月17日(土)[終了しました]

1)バイリンガリズム研究会「CALP を視点とした授業分析:思考力を伸ばす言語教育」白井芳子(多摩大学)、桐村美香(国際基督教大学)、平井清子(北里大学)

2)「英語読解力テストの妥当性に関する要素についての考察」小林美代子(神田外国語大学)

10月16日(土)

文部科学省委嘱による研究

1)本名信行(青山学院大学)

2)高田康成(東京大学)

12月18日(土)

1)語法研

2)JACET テスト研究会(石川祥一、中村優治) JACET SIG on Testing

3月19日(土)

JACET、その他の学会にて好評であった発表を予定

支部便り

<北海道支部>

1. 研究会の開催

第1回研究会

日時:5月29日(土)13:00~15:00

場所:藤女子大

講演「英語を専攻としない学生に対するディベートを視点としたライティング指導」佐々木智之(北海道工業大) // 講演

「The influence of globalisation on traditional cultural views」松本恭代(旭川大)

2. 運営委員会の開催

第1回運営委員会

日時:5月29日(土)15:00~17:30

場所:藤女子大

全国理事会参加報告、および予算・決算、支部大会ならびに総会の議題について審議。

3. JACET 北海道支部第19回大会

日時:7月10日(土)10:30~17:30

場所:北海学園大

研究発表「学習者のニーズに沿った英語授業の試み プレゼンテーション・ツールを用いて」竹村雅史(函館高専) // 研究発表

「大学1年生を対象にした英語授業の評価 授業観察法 COLT Part A を用いて」(JACET 北海道支部 CCR 研究会) // 小講演

「小学校における外国語教育と英語学」岡野哲(北海道大名誉教授) // 総会:前年度行事活動及び会計報告並びに監査報告、

本年度行事予定及び予算の審議、支部役員の退任及び新任について承認 // 講演

「World Englishes 研究の歴史・現状・問題点」田中春美(南山大名誉教授) // シンポジウム「大学英語教育再考 どんな英語をどのように教えるか」司会:上野之江(北海学園大) 講師:河合靖(北海道大)、新井良夫(藤女子大)、竹内康二(札幌国際大短大部)、内藤永(旭川医科大)

河合靖(北海道大)

< 東北支部 >

村野井 仁 (東北学院大)

1. 2004 年度支部役員 (主な役員)

顧問: 畑中孝實 (東北学院大名誉教授)・幸野稔 (秋田大名誉教授) / 支部長: 千葉元信 (宮城工業高専) / 理事: 千葉元信 (宮城工業高専)・尾形良道 (東北芸術工科大) / 評議員: 早坂高則 (奥羽大) 板垣信哉 (宮城教育大) 小嶋英夫 (弘前大) 成沢義雄 (東北学院大) 渡部良典 (秋田大) / 事務局幹事: 高橋潔 (宮城教育大) / 研究企画委員: 18 名

2. 2004 年度活動予定

東北支部総会・支部大会

日時: 2004 年 6 月 5 日 (土) 14:30 ~ 17:30  
場所: 東北学院大

講演会: 14:30 ~ 15:30 「なんのための英語教育か 国際語としての英語 (EIL) の勧め」講師: 矢野安剛 (早稲田大・JACET 理事)

シンポジウム: 15:40 ~ 17:10 「新しい英語教育における教員養成の在り方」パネリスト: 村野井仁 (東北学院大)・矢野安剛 (早稲田大) 下田仁 (宮城県教育庁高校教育課)

東北支部通信 No.26 号発行 9 月中旬

10 月例会

日時: 2004 年 10 月 30 日 (土)

場所: 山形市

研究発表 2 件

東北支部通信 No.27 号発行 12 月上旬

12 月例会

日時: 2004 年 12 月 4 日 (土)

場所: 仙台市

研究発表 2 件およびシンポジウム予定

東北支部紀要創刊号発行

2005 年 3 月予定

上記の通り、東北支部では支部長を始め支部役員に大幅な異動があり、新体制で 2004 年度の活動が行われている。紀要の創刊や支部通信の刷新も予定されており支部活動の活性化が期待されている。

< 中部支部 >

第 43 回 JACET 全国大会

日時: 9 月 3 日 (金) ~ 9 月 5 日 (日)

場所: 中京大学 名古屋キャンパス

テーマ: 「国際語」としての英語 - その教育目標と基準 -

2004 年度中部支部総会・講演会

日時: 6 月 5 日 (土)

場所: 中京大学 名古屋キャンパス

総会: 14:00 ~ 14:45 / 議題 1. 報告事項 将来構想委員会、大会実行委員会 / 議題 2. 審議事項 2003 年度活動報告 2004 年度活動計画、2003 年度支部会計報告、2004 年度支部会計予算、支部役員

講演会: 15:00 ~ 17:30 『『観察』から『分析』へ 自己『表現』の教え方』豊田昌倫 (関西外国語大学)

「Some Implications of Teaching English in Japan from Sociolinguistic Point of View」Chua Liang (名古屋大学) 大森裕實 (愛知県立大学)

第 1 回中部支部役員会

日時: 4 月 10 日 (土) 14:00 ~ 15:35

場所: 中京大学 名古屋キャンパス

議題: 1. 全国委員会委員の選出 / 2. 講演会 / 3. ニュースレター

第 2 回中部支部役員会

日時: 5 月 8 日 (土) 14:00 ~ 15:20

場所: 中京大学 名古屋キャンパス

議題: 1. 支部総会・講演会 / 2. 2003 年度会計決算 / 3. 2004 年度予算案の修正 / 4. 全国大会担当委員

第 3 回中部支部役員会

日時: 7 月 10 日 (土) 14:00 ~ 15:20

場所: 中京大学 名古屋キャンパス

議題: 今後の活動目標

第 2 回第 43 回全国大会実行委員会

日時: 4 月 10 日 (土) 15:45 ~ 17:00

場所：中京大学 名古屋キャンパス  
議題：全国大会業務に関する確認、審議、及び決定

第3回第43回全国大会実行委員会

日時：5月8日(土) 15:35～17:00

場所：中京大学 名古屋キャンパス

議題：全国大会業務に関する確認、審議、及び決定

第4回第43回全国大会実行委員会

日時：6月5日(土) 11:00～12:00

場所：中京大学 名古屋キャンパス

議題：全国大会業務に関する確認、審議、及び決定

第5回第43回全国大会実行委員会

日時：7月10日(土) 15:30～17:15

場所：中京大学 名古屋キャンパス

議題：全国大会業務に関する確認、審議、及び決定

第6回第43回全国大会実行委員会

日時：8月26日(土) 15:00～17:00

場所：中京大学 名古屋キャンパス

議題：委員名簿、アルバイトシフト表などに関する確認、審議、及び決定

ニューズレター

No.12 5月9日発行

村田泰美(中京大非常勤)

< 関西支部 >

## 1. 秋季大会

大会テーマ：「教育の改革 英語教育の行方」

日時：2004年10月10日(日) 10:15～18:00

場所：京都外国語大学

プログラム：

### (a) シンポジウム

「特色ある大学英語教育に向けての実践と課題」司会：豊田昌倫(関西外国語大)  
パネリスト：江平英一(関西外国語大学短大)、智原哲朗(大阪女学院大)、Lucy Cooker(神田外語大)

### (b) ワークショップ

- ・「外国語としての英語の読みと眼球運動：EMR 8 を使った計測の意義と実際」発表者：門田修平(関西学院大)、鈴木裕子(大阪樟蔭女子大(非))、釣井千恵(桃山学院大(非))、山科美和子(桃山学院大(非))
- ・「クラス・マネージメントを比較する ESP からの発想」司会：椋平 淳(大阪工業大) / 発表者：新田香織(近畿大)、井村誠(大阪工業大)、岩井千春(大阪大(院生))

### (c) 研究発表および実践報告

- ・「企業が求める英語とは」深山晶子(大阪工業大)
- ・「Paradigm Shifts in the Language Education Policy Formation Process: Toward Theory Development」Robert J. Fouser(京大)
- ・「Foreign Language Teaching and Communities of Practice」岡田悠佑(立命館大(院生))
- ・「Read-and-Look-Up を用いた音読が高校生の Listening 能力に与える効果」土居美由記(和歌山大(院生))・和歌山県立商業高校)
- ・「質的研究 英語の授業を変える Information Approach: コミュニケーションを考慮した学習者中心の授業で動機付けを高める考察」川部和世(関西大(院生))
- ・「現在完了指導について一試案」森永弘司(立命館大(非))
- ・「第1言語が第2言語単語認識に与える影響と第2言語リーディング力との関係について」赤松信彦(同志社大)
- ・「外国語教育のための誤り知識記述：学習者コーパスの共同環境の構築をめざして」谷村緑(近畿大(非))、竹内和広(情報通信研究機構)、井佐原均(情報通信研究機構)
- ・「TOEFL における語彙の特徴、語彙レベル、真正性の検証」水本篤(立命館大(院生))

生)) 妻鳥千鶴子(パーミンガム大(院  
生))

・「日・英小説における感情表現の違い」伊  
原紀子(神戸市外国語大(非))

・「句動詞の意味成立の考察 make up を中  
心に」青木真喜子(在宅翻訳)

・「A comparative study of the two prepositions  
in Chinese and English 和(he) and WITH」  
YANG, Demin(神戸市外国語大(非))

・「談話における日英語の否定疑問文」香月  
真由美(関西学院大(院))

## 2. 講演・シンポジウム

### (a) 講演

日時: 2004年10月30日(土) 13:00-14:15

場所: 千里金蘭大

演題: 「私に関係した英語教育政策35年の  
表裏」講師: 小池生夫(明海大)

### (b) シンポジウム

日時: 2004年10月30日(土) 14:30-17:00

場所: 千里金蘭大

テーマ: 「動き出した英語教育」パネリス  
ト: 小池生夫(明海大) 大谷泰照(大阪大  
名誉教授) 豊田昌倫(関西外国語大) / 司  
会: 岡田伸夫(大阪大)

## 3. 談話会

### (a) 第2回談話会

日時: 2004年12月4日(土)

場所: コープイン京都

講師: Robert J. Fouser(京都大)

### (b) 第3回談話会

日時: 2005年3月5日(土)

場所: 京都外国語大

テーマ: 検討中

時岡ゆかり(大阪産業大) 東眞須美(神戸  
芸術工科大)

## < 中国・四国支部 >

中国・四国支部役員会

日時: 平成16年6月4日(金) 15:00~17:00

場所: 松山大学 859 室

議題:

1. 第21回支部大会について

2. 2003年度の事業報告並びに会計報告

3. 2004年度の事業計画並びに予算案

4. 2005年度の事業計画(第22回支部大会,  
研究会など)

5. 支部役員交代・運営委員の選出

6. 支部会則の改訂

7. その他(支部広報活動、HP、  
NEWSLETTER、メーリングリストなど)

中国・四国支部第21回支部大会

日時: 平成16年6月5日(土)

場所: 松山大学 843 室

大会テーマ: 「英語カリキュラム改革の功罪  
本音を語ろう」

[1] 自由研究発表(10:30~12:00)

司会: 池野修(愛媛大)

1) 研究発表「Helping Students Take Control  
of their Non-understanding」内田浩樹、Sarah  
Haas、Neil Birt(鳥取環境大)

2) 研究発表「英語教科の中・高移行時にお  
ける学習ギャップ: 英語教科書の定量分析  
を通じて」佐藤正教(広島市立大院)

3) 研究発表「非英語母語話者同士のインタ  
ーアクションに関する研究の実態調査」佐  
藤潤(広島市立大院)

[2] 自由研究発表(13:30~15:00)

司会: 増田豊(松山大)

1) 研究発表「Englishes に慣れる重要性と  
実践報告」高垣俊之(尾道大)

2) 研究発表「Curriculum Development and  
Course Design: Introducing the EPIC  
Programme」Roger Nunn、Darren Lingley  
(Kochi Univ.)

3) 研究発表「Levelt の発話産出モデルを基  
にしたコミュニケーション方略指導効果の  
理論化」岩井千秋(広島市立大)

[3] パネルディスカッション(15:20~  
16:40) 司会: 西田正(広島大)

題目「英語カリキュラム改革の功罪—本音

を語ろう」パネリスト(順不同): 広瀬浩三(島根大) 篠津成一(鳥取大) 松岡博信(安田女子大)

中国・四国支部第21回支部大会の詳細に関しては、下記のURLを参照のこと。

<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~bld10/JACE/T/JACET.html>

研究会活動報告

アジア地区大学英語教育研究会(代表: 篠津成一・鳥取大)の研究報告「アジアの英語と英語教育(第7集)」が9月初旬に発行される。掲載論文は下記の4編である。

1) 「Is There a Vietnamese-English in International Communication in Vietnam?」Tran Van Phuoc (Hue Univ.)

2) 「外国語固有名詞の片仮名表記の問題 高さアクセントの位置を表記方法で変えられるか ワシントン、ソレンセンの場合」沼野治郎(広島国際学院大)

3) 「日韓の大学入学試験英語問題に見る構成語の特徴 英文テキスト・コーパスの解析に基づく考察」石川慎一郎(神戸大)

4) 「Government Policies for English Language Education in Japan, Indonesia, and Thailand at Junior High School Level: How are They Reflected in the Textbooks」Keiko Ochi (Ehime Univ.)

鳥越秀知(詫間電波高専)

#### <九州沖縄支部>

本支部の活動の中核である支部研究大会は、10月9日、福岡女学院大学で開催予定である。これまで、細川博文実行委員長(福岡女子学院大)を中心として大会実施に向けた会議が行われてきたが、8月下旬、支部会員の手元には大会資料(プログラム・発表要旨、ホテル案内等)が送付されている。当日は、午前中に11件の研究発表、午後には細川博文氏(同上)による文科省の「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・

ハイスクール」指定校である福岡女学院高校の英語教育の実践報告、安浪誠祐氏(熊本大)をコーディネーターとするシンポジウム「社会が求める英語力にいかにか答えるか」が予定されている。

支部大会では支部総会も併せて開催される。8月28日の支部運営委員会では、現支部長の鈴木千鶴子氏(長崎純心大)の支部長としての任期が2005年3月で終了することをうけて、支部長選挙がおこなわれた。新しい支部長と副支部長は、10月9日の支部総会で承認を受けた後、来年4月から支部の運営を担当する。

支部大会とともに重要な本支部の学術活動に、「JACET九州沖縄支部紀要」の発行がある。今回は第8号となるが、締め切り日の5月31日には多数の応募があった。すでに査読は終了し、紀要掲載のための条件を満たした論文については、初稿入校のための準備が進められている。

本支部関連の講演会、研究会として、次のような催しが行われた。

#### 1. 支部主催の春期学術講演会

4月17日(土)長崎純心大

「国境を越える 世界の命のための言葉とコミュニケーション力」山本敏晴氏(医師・「国境なき医師団(MSF)」理事・世界共通の教科書を作る会代表)

#### 2. 東アジア英語教育研究会

4月24日(土)西南学院大

「サウジアラビアの英語教育 カリキュラムの変遷を中心に」小笠原真司氏(長崎大)

5月15日(土)西南学院大

「日韓英語入試における使用語彙の計量的分析」石川慎一郎氏(神戸大)

6月26日(土)西南学院大

「高校生の英語の聞き取り能力に及ぼす外的要因について」亀田利恵子氏(東京都立小山台高)

7月17日(土) 西南学院大

「日韓中の英語教科書の題材比較」小川直義氏( 県立長崎シーボルト大 ) 山下徹氏( 熊本大 ) 清永克己氏( 飯塚日新館中 )

### 3. ESP 研究会

5月29日(土) 熊本大

「九州沖縄地区の医学・看護・工学系大学におけるニーズ分析」山内ひさ子氏( 久留米工業大 ) 中野秀子氏( 九州共立大 ) 横山彰三氏( 宮崎大 ) 安浪誠祐氏( 熊本大 )

### 4. 英語とコンピュータ研究会

8月28日(土) 県立長崎シーボルト大

「英語の語彙に関する公開講座」村田年氏( 和洋女子大 ) 望月正道氏( 麗澤大 ) 清水伸一氏( 安城学園高 ) 上村俊彦( 県立長崎シーボルト大 )

### 5. 合同開催(「英語とコンピュータ研究会」 「東アジア英語教育研究会」)

7月31日(土) 長崎純心大

“Multi-media Use for ELT in Taiwan” Dr. Yi-Ju Chen ( Shih-Hsin Univ. )

なお、催し物の詳細については、本支部ホームページ <http://www.n-junshin.ac.jp/jacet/> を参照いただきたい。

上村俊彦( 県立長崎シーボルト大 )

## 研究会報告

### 北海道支部 CALL 研究会

北海道支部 CALL 研究会は、2003 年度に実施したオンライン利用の Computer Assisted Writing Project の中で学生が書いた作文の分析を行なっています。ライティングに困難を感じている学生がどのようにしたらオンライン機能の助けを借りながら、ライティングで成果を上げられるのか探してみたいと考えています。

上野之江( 北海学園大学 )

### 北海道 CCR 研究会

CCR 研究会は、毎月 1 回から 2 回の会合を開き、現在は Nina Spada と Maria Frohlich による Communicative Orientation of Language Teaching ( COLT ) Observation Scheme を用いた授業観察を研究テーマに設定して活動を行なっている。2 年の研究計画で、昨年度は COLT による授業観察法の学習と、資料の収集及びコード化を行ない、2 年目の本年度はその考察と研究発表及び論文の執筆を行なっている。JACET 北海道支部大会で研究発表を行ない、支部紀要へ投稿するため、論文を完成したところである。今回の研究では、COLT Part A を用いて授業者による違いを考察した。今後、得られた資料をもとにさらに考察を加え、必要に応じて Part B のコード化も行なって、研究をさらに進めるよう検討中である。

河合靖( 北海道大 )

### ESP 北海道

ESP 北海道は、今年度から新たに発足した、生まれたての研究会である。2003 年 9 月に東北学院大学で行われた第 42 回 JACET 全国大会において、ESP 本部に属する「北海道グループ」としてシンポジウムに参加し、その後、2004 年 2 月から JACET 北海道支部の支援を受け、勉強会を実施していた。多くの方の激励と助言を頂戴し、この度、JACET の研究会として正式に発足する運びとなった。この場を借りて、心を込めて感謝を申し上げたい。

本研究会は、現在 10 名のメンバーが在籍し、通算 3 回の例会を開催した。ESP の理論的な枠組みを正確に把握するために、「ESP の理論と実践」( 三修社 ) を輪読している。その一方で、ESP と各メンバーの教育実践との関わりを確かめるべく、勤務校における実践報告を行っている。その一部については、北海道支部平成 15 年度第 3



回研究会、第19回北海道支部大会において、吉田翠（天使大学）と内藤永（旭川医大）が口頭発表を行っている。

北海道内では、特定の学科目に特化した小規模大学が散在している。また、北海道の各大学では、地元出身学生の地元就職率が高いとのデータもある。今後、ニーズに適う教育が実践できるように、基礎的な研究を推進していく計画である。英知を結集するためにも、多くの方の参会をお待ちしている。ESP北海道ホームページ：

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/ge/english/naito/esp/>

内藤永（旭川医大）

#### 中部支部「CPHとSLAの相関関係研究」研究会

2004年度研究例会使用テキスト

Maria Garcia Mayo & Maria Garcia Lecumberri (2003) Age and the Acquisition of English as a Foreign Language. Multilingual Matters.

##### 第1回研究例会

日時：2004年5月22日（土）午後2:00～  
会場：愛知県立大学外国語学部棟 3F 英米学科共同研究室

レポート：第1章「Critical Period or General Age Factor(s)?」 Singleton. レポーター：鹿野

##### 第2回研究例会

日時：2004年7月3日（土）午後2:00～  
会場：愛知県立大学外国語学部棟 3F 英米学科共同研究室

レポート：第5章「Age, Length of Exposure and Grammaticality Judgements in the Acquisition of English as a Foreign Language.」 Garcia Mayo. レポーター：鹿野

##### 第3回研究例会

日時：2004年8月4日（水）午前10:30～  
会場：名古屋大学情報文化部棟2階 講師室

レポート Cook, V. (1999). 「Using SLA research in language teaching. International Journal of Applied Linguistics.」 Vol. 9, No. 2. 267-284. レポーター：水野 // レポート第4章「The Influence of Age on the Acquisition of English: General Proficiency, Attitudes and Code-Mixing」Cenoz. レポーター：小西

##### 第4回研究例会

日時：2004年8月25日（水）午前10:30～  
会場：名古屋大学情報文化部棟2階 講師室

レポート 第2章「Phonological Acquisition in Multilingualism」Leather. レポーター：大森 // レポート 第6章「English FL Sounds in School Learners of Different Ages」 Garcia Lecumberri & Gallardo. レポーター：加藤

##### 第5回研究例会予定

日時：2004年10月2日（土）午後2:00～  
1. 第3章のレポート（水野）

2. Robinson (Ed.) (2002). 「Individual Differences and Instructed Language Learning」 John Benjamins から「年齢と外国語学習」をテーマとした論文を紹介。（鹿野）

今後の予定：本書の抄訳と解説を含めた「モノグラフ」を刊行する予定。

代表：大森裕實（中部支部）

編集 濱岡美郎（広島国際大学）

下山幸成（東洋大学非常勤講師）

2004年9月30日発行 [html版のみ]

発行者 大学英語教育学会（JACET）

代表者 田辺洋二

発行所 162-0831 東京都新宿区横寺町55

電話 (03) 3268-9686

FAX (03) 3268-9695

E-mail: jacet@zb3.so-net.ne.jp

<http://www.jacet.org/>